

大岩誠 おおいわ まこと 政治學者。明治三十二年七月八日東京下谷生れ（一九〇〇—）。筆名多賀義彦。大正十五年京都帝國大學法學部フランス入政治留學卒業。政治學史專攻。昭和二年京都帝大助教、のちフランス留學後、京大事件に際し辭職。その後を命館大學教授、同圖書館長、滿鐵（南滿洲鐵道株式會社）調查部囑託、清京女學院大學教授、南山大學教授歴任。日本カムボジヤ友好會理事。

譯書に、ポール・ジャネ著「サン・シモン及びサン・シモンイズム」（昭和二年十月）、「千五百大鏡閣」、『君主論』（多賀義彦名、昭和十五年二月十日創立社「マキアヴェェリ選集」第一卷）、J・E・エンニス著「印度支那—フランスの政策とその發展」（昭和十六年四月十日生活社）、ヤンリ・ムオ著「ロタイ、カンボヂヤ、ラオス諸王國通歴記」（昭和十七年十一月）、「千の改造社」、以下岩波書店版「岩波文庫」に、モンテスキュー著「ローマ人盛衰原因論」（昭和十六年五月二日刊）、マキアヴェェリ著「ローマ史論」全二冊（第一卷、昭和二十四年六月十日、第二卷、八月十日、第三卷、二十五年五月五日刊）、同「マン・ドゥ・グロテ」（昭和二十四年六月二日刊）、シエーイエス著「第二階級とは何か他」二篇』（昭和二十五年五月五日刊）、カム・パホルテ著「太陽の都」（昭和二十五年八月十五日刊）、モンテスキュー著「ロペルシヤ人の手紙」全二冊（上・昭和二十五年十一月）、「下」。

「二十六年一月五日刊）、モリス著「必然の法典」（昭和二十六年一月



